

今回の探検先は…

いなげや

http://www.inageya.co.jp

東京都立川市に本社を置き、東京・埼玉・神奈川・千葉に店舗を展開するスーパーマーケット・チェーン。

「稲毛屋魚店」として明治33年に創業。昭和23年に株式会社「いなげや」となる。昭和31年、当時はまだ珍しいセルフサービス方式のスーパーマーケット・チェーンの展開を開始する。今年で創業110周年を迎えた。

従業員数1,795人、店舗数125店(平成22年5月現在)

●探検実施日:2010年8月25日(水)

◆◆◆探検を前に準備万端の子供たち

スーパーにはどんな種類の仕事があるの？肉や魚はどんなふうにパックしているの？…いながやの仕事を探検するため、アイテムに集まった23人の



隊員たちは、たくさんの質問を事前に準備していた。なかには、いなげやのマークにはどんな意味があるの？といった質問も。「このマークは、若い木の形をあらわしています」と教えてくれたのは、いなげや本社で環境・社会貢献活動の仕事を担当する田中さんだ。「これからもうずっと会社が成長するようにという願いが込められているんだよ」。

身近なところにも、仕事がいっぱい！
小学生がスーパーの裏側を探検。

◆◆◆いよいよ、お店の探検スタート

オリエンテーションを終え、バスでいなげや立川栄町店に到着。田中さんがまず連れて行ってくれたお店の入り口には、リサイクルボックスが3つ並んでいた。集められた資源は、洋服やトイレトペーパーなどに生まれ変わるのだという。

次に案内されたのは、店内の牛乳などが並ぶ冷蔵用の棚。よく見ると、上の方に小さな取っ手がついている。田中さんが取っ手を引っ張ると、まるでブラインドのように透明のビニールシートが降りてきた。

「閉店後も冷蔵の電気は入れたままなので、棚の表面をこのシートで覆うことでエコにつながっています。スーパーが取り組む環境対策に、子供達も真剣に耳を傾けていた。



◆◆◆思ったよりも難しい！レジ打ち体験

「次はレジを打ってみよう」ここからは、店長の吉原さんが案内役をつとめてくれた。子供ひとりひとりが順に、商品のバーコードをレジに読み取らせ、品名と値段が画面に表示されると、瞬ほつとしたような表情を見せる。いつもは外側からしか見えないレジの内側に立って、子供達は興奮。「レジ打ちって結構難しい」「いつも早いスピードで打っているお店の人ってスゴいんだね！」と、歓声をあげていた。



◆◆◆マイナス20度を体感

続いてお店の裏側を探検だ。

肉売り場と魚売り場にはさまれた店内の扉から入っていくと、裏手には2つの部屋があった。「片方は肉の、もう片方は魚の作業場です」と、吉原さんが教えてくれる。魚の作業場を通り抜けていくと、大きくて頑丈な扉のむこうに、もう一つの部屋が。「この部屋全体が冷蔵庫です」と言われて中をのぞきこむと、できたてのお刺身がズラリと並んでいる。冷蔵室内には、さらにもうひとつの大きな扉が閉じていた。「ここは冷凍室」と吉原さんが扉を開けると、ひんやりとした冷気が流れ出た。促されて、子供達はマイナス20度の冷凍室へ入ってみる。当日は猛暑だったが、冷えた室内に「さむい」と子供達は身を縮ませた。

◆◆◆パン職人は、力持ち？

パン売り場の裏側では、この道20年以上というベテランの清水さんが、大きなオーブンからチーズたっぷりの焼き立てパンを取り出すところだった。パンののった熱い鉄板を引き出すため、手にはめてある分厚い布製のグローブは真っ黒。熱とバターなどの油で、すぐに焦げてしまうのだという。「鉄板一枚の重さは、約1.3キログラム。パンをのせるともっと重くなります。毎日たたくさんのパンを焼くので、筋肉むきむきになりますよ」と、スマートな清水さんが笑った。

◆◆◆仕事って大変だけど楽しそう

子供達は野菜をパックする作業場や、厳しい衛生管理のもと惣菜が作られる様子を見学。売り上げ状況等を把握する部屋も見せてもらった。最後に、各売り場の担当者が子供達の前に集まってくれた。「季節を感じさせる売り場づくりが楽しい」と言う青果担当の小山さん。

感想コーナー

- お店の中には、かくれた秘密や工夫がたくさんあることがわかり、これからも工夫をさがしたくなりました。
- れいとう庫の中に入ったときはとても寒くてびっくりしました。
- お店のうらには、思っていたよりたくさんの部屋があった。
- いろんな部屋が寒かったり暑かったりしておもしろかった。

株式会社いなげや
社長室 田中智之さん

通常「店舗見学」は、各店舗で近隣の学校より実施の要請があって直接受けています。今回のような参加者を募集しての実施は初めてでした。

普段の見学では、やはりしっかり聞いてくれるお子様とそうでないお子様がいらっしゃいます。ですが、今回は応募までして来ているお子様だけあって、店長や私が説明していると、目を見て真剣に聞き、質問も沢山出て、店長の吉原も「これだけ意識の高い小学生の見学は初めてです」と申しておりました。私共にとっても貴重な時間・経験となりとても感謝しています。是非またこうした機会があればお願いをしたいです。

●「アイテムしごと探検隊」ご協力のお願い

(株)アイテムでは、訪問先としてご協力いただける企業・団体を募集しています。子供達が「仕事」について考える機会を一緒に提供していただませんか？

お問い合わせは
「アイテムしごと探検隊」事務局まで ☎0120-938-989

